



みずみどり

2001年7月15日 第25号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm>

E-mail: mizumidori@nifty.com

〒174-006 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

赤塚公園の昆虫調査

今年も赤塚公園にトラップをしかけます。

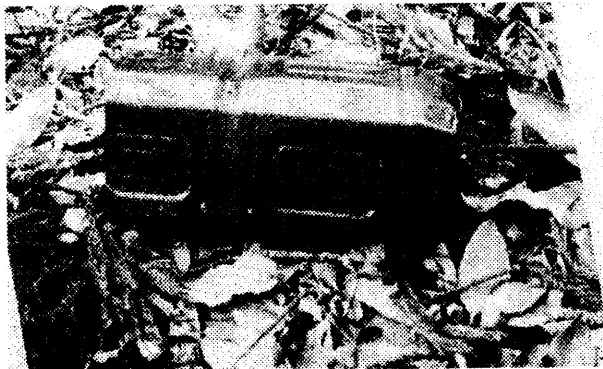
去年の夏、区内のあちこちにトラップをしかけ、地表性の昆虫を調べるとい調査をやりました。板橋区が呼びかけ、住民が参加し、近くの緑地や公園にどんな自然が残されているかを調べてみよう、ということです。

結果は、やはり種類数、個体数共に最も豊富なのは赤塚公園内の各地点でした。アオオサムシやオオヒラタシテムシ、エンマコガネなどが山盛りに入っていたトラップもありました。小さな甲虫類の種類も多く、区内で最も自然が残っている所は赤塚公園である、と言いきってかまわない結果となりました。

そこで、赤塚公園をホームグラウンドにしている、いたばし水と緑の会が中心になり、今回当地のトラップ調査をやってみようか、ということになりました。真夏の炎天下（今年は去年以上かも知れません）、ヤブカの猛襲に耐え、汗みどろになる、たまにはこんな経験を味わうのも面白いではないでしょうか。何がかかっているのか、朝の回収の楽しみは格別です。

実施日は7月28日の土曜日です。去年参加された方も、今年はやってみようかな、という方もどうかご協力お願いします。

方法は去年と同様で実施しますが、今後のためより簡単な方法を一部実施してみます。ペットボトルを使用するやり方で（図参照）、国立科学博物館の野村周平氏が考案したもので「ノムラホイホイ」名づけられています。かさばりますので運ぶのは大変ですが、設置、回収の手間は大幅に省けます。



ノムラホイホイ

竹林の市民管理・・・ひとつの提案

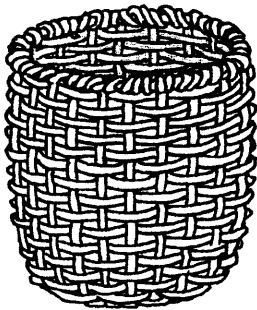
猪鼻 昭二

竹は日本古来の植物ではなく中国原産です。食用（タケノコ）や、生活用具をつくるために各地で植えられました。プラスチックが普及して、竹製品が使われなくなり、竹林が放置された結果、細い竹が密生し、まわりの雑木林に侵入した竹なども目につきます。

いたばし水と緑の会では、市民が竹林を管理しながら、間引いた竹を有効に使えないかと考えました。平成11年7月から実験的に東京都にお願いして城趾裏の竹をもらい、地域の子供達の自然体験に活用できないかと考え、試作品をつくったり、お祭りのときに竹とんぼや竹けん玉づくりをしたり、草地や樹林地を保護する柵に使ったりしてきました。

しかし竹林の竹はほとんどが孟宗竹なので、太いところは花瓶などに適しているが、何といてもキメが荒くて、細かい加工（薄く裂いて使う）には全く不向きなことが分かりました。また、細くて長い物が得られないので、竿状のままを使う（竹馬や水鉄砲など）のにも困っています。

公園にある竹林としては、タケノコ泥棒の胃袋に入ってしまう孟宗竹よりも、竹細工の材料になる真竹やシノ竹のほうがふさわしいように思います。そこで、水と緑の会として真竹やシノ竹を栽培・管理し、使いたいときには自由に伐採できる形態にならないものかと、考えた次第です。これとても、栽培する場所は公園の一部を使わせてもらうことから、その承諾を得ることが前提になりますが、可能になれば非常に自由度が増します。



何処にどんな竹を植えて管理運営するか、以下に私案をメモしますので、ご検討をお願いいたします。

1. 植える竹の種類

① 真竹またはハチク

太いものでは直径10cm位になり、きめが細かく裂いて使える外、竿や円筒状での用途（竹馬や水鉄砲など）がある。

② シノ竹またはヤダケ

直径3cm位までになり、棒状のままや細かく裂いて（籠などに）使える。

2. 何処にどれ位植えるか

(1) 場所

何処を使ってよいかで制限されるが、ある程度の日照や切り出し作業性（広場が近いところにある）がよく、それに現在の孟宗竹から離れていること、隣接民家に日照や倒れ込み（雪や風で）などで迷惑をかけないこと等から、下記の場所が考えられる。

① 城址裏の竹林に隣接した位置

竹林に隣接し、道路に近い広場寄りの少し高台のところ（孟宗竹が侵出し始めているので、退治するほか太い樹木がかなりある）

② 郷土資料館の裏側近く

資料館の裏側の公園（細い竹が1株植えてある）。または近くの山の裾部。資料館の裏庭が使わせてもらえるとなお良い。

③ 乗蓮寺裏

ビオトープ手前の広場の山寄り、あるいは山裾（現在上り坂の右側に竹林があり、裾の方には竹は生えてないが、民家が近い）。

(2) 面積

生えてから5年目の竹を一年に10本位使うとすると、 $4 \times 10 = 40$ 本以上生やしておくので、 $50\text{cm} \times 50\text{cm}$ に一本の密度として、 $0.25 \text{ m}^2 \times 40 = 10 \text{ m}^2$ / (1種類) となり、周りに1mの隔離スペースを設けると、 $(4 \times 7)\text{m}$ / (1種類) の面積が必要と思われる。2種類なので縦に二つ並べれば、境のスペースが共用なので全体で大よそ $(7 \times 7)\text{m}$ 、 50 m^2 位あればよいと思われる。

3. 管理と運営

(1) 隣に孟宗竹があった場合は勿論、他の竹との隔離スペース（幅1メートル）は、互いに入り乱れないように、定期的に監視（境界を出入りする竹の根を探って除去）する必要がある。

(2) 竹には、生えた年号をタグなどで明示し、記録する。

(3) 次の1年に使える竹の数量と材質から、どんな作品（数量）が作れるか計画して、竹を使っていく。

(4) 除草や倒竹などの処理。

(5) その他（竹細工など使い道の勉強も）。

[参考]

1. 孟宗竹の生長はすさまじく、2ミリ位のエンピ板を根が突き破って直進するそうです。1年に10数mも根が伸びる由。

2. 根は1m位は潜るので、境界部の隔離部は耕して柔らかくしておく必要がある。

城址草原ビオトープの植物調査と勉強会

昨年の4月に赤塚城址に草原ビオトープができました。わざわざ作ったのではなく、私たちは草刈りをしない場所の柵を作っただけです。半年で、バッタやカマキリが増えました。今年はイネ科の植物が目立ちます。島井先生に聞くと、草刈りをしたところと、しないところの植生の違いが出てきているということです。

私たちが自然を取り戻そうとして、何らかの働きかけをした結果、自然環境は変化していくはずですが、どういう風に変化していくのかを、会として把握し、記録していく必要があります。

というわけで、会の島井先生に調査の基礎を教してもらいながら、植生の勉強をしていきます。興味のある方はぜひ、参加してください（日程等は後の予定表をみてください）。

アシナガバチのこと

瀬田 政江

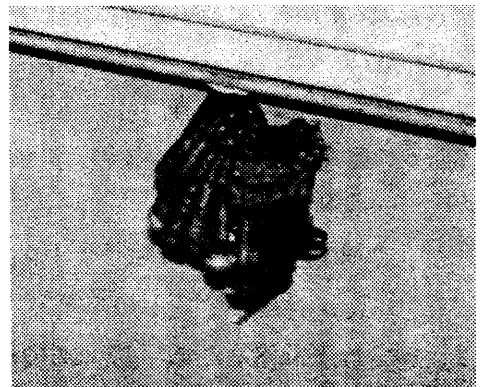
我が家のベランダにアシナガバチが巣を作ります。もう6年位毎年同じような場所に巣を作ります。まず一匹のハチが6月の初め頃やってきて、最初は本当に小さい巣を時間をかけて作ります。巣が2段か3段になると（ここまで1ヶ月位かかります）次に5、6匹が何処からかやって来て、朝早くから、夕方暗くなるまでせせと働き、巣作りに励みます。最初に作った根元の所も補修しながらだんだんと大きくなります。出来上がると船のような形になります。洗濯物を干す場所なので、近付きすぎてハチを刺激しないように気を付けていますが、うっかりとぶつかり左手を刺されてしまいました。

最初にやって来たハチと、後から巣づくりを加勢したハチとの関係が親戚なのか？どうしても気になって、ハチの研究をしている、大東文化大付属高校の干場先生に伺ったところ、親子との事です。干場先生の専門はハチの近親交配だそうです。またアシナガバチの仲間は、このあたりでもあまり見られなくなってしまったようです。その貴重な

ハチが今週になって（7月10日頃）2箇所とも巣を放棄してしまいました。

原因は分かりませんが残念です。毎年巣立って行ったのに、今年はどうしたことでしょう？

もうひとつ、アゲハがさなぎになり、羽化するのを楽しみにしていたのに、他の虫に穴を開けられ、こちらも失敗でした。



赤塚自然池の水草を増やす作戦

池をつくってからずっと池を観察し、毎月ザリガニ捕りをして、ヤゴが羽化するのを待ちました。しかし、2年間ヤゴの羽化殻はありませんでした。

ザリガニが増えたことは、コンクリートの池より環境がよくなったためだそうです。しかし、ザリガニ池は当初の目的ではありません。

5月13日のかいほり後、水草が生えやすいように水を入れずにおいたのですが、植物の発芽は今ひとつでした。

水草の箱にいたヤゴはマルタンヤンマだった。

池に浮かべた水草を入れた箱舟には、ザリガニが数多くいましたが、ヤゴもいました(5月号植田さんの報告)。釣巻さんがこのヤゴを1匹羽化させたところ、マルタンヤンマというトンボで、板橋区の調査では初めての記録だそうです



です(7月15日(日)箱舟のなかにさらに3匹の羽化殻がありました)。あのように狭く、ザリガニも数多くいた箱の中でも、水草やソダがあれば、ヤゴもすめるのです。なんとしても水草を増やしたい。そうすれば、ヤゴやオタマジャクシもザリガニと共存できるでしょう。

7月9日(月)、池をどうするか検討会が開かれました。池が出来てから、池づくり検討会のメンバーの出席は少なくなって、現在ビオトープを管理している水と緑の会のメンバーが中心です。

水草が育ちやすい環境をつくるために、まず広場側に浅い湿地部分をつくることになりました。入れる土は赤土です。赤土には種子は含まれていないので、他の地域の種子が生えるという心配はありません。しかし、水草はその辺には生えていないので、風に運ばれて水草の種が飛んでくる可能性もあまり期待できません。そこで次に、荒川の水草を植えることになりました。移植できる水草は種類も株数も限られるので、荒川の表土を、花咲爺さんのようにまくことになりました。荒川の土がもらえるとよいのですが、今の河川行政の考えでは、荒川固有の動植物を守るため、土を移動させないことが原則になっているそうです。

植物の生長が盛んなこの時期を逃したくないので、以上の作業を猛暑の7月20日にします。体力と相談してお手伝い下さい(活動のお知らせ参照)。大がかりな工事はこれが最後になります。

徳丸が原公園は一部壊されて水漏れ

大西さんが水漏れ箇所を発見、大西さんも直せない重症の破れで、環境保全課が補修工事を依頼しました。これはいたずらというより、破壊行為です。徳丸が原公園の自然池は道路に面し、緩衝帯也没有。水深も浅く、中に入って遊ぶ子供も多いようです。どろんこ遊びができる場所が他にないし。自然の場所はいたずらで苦勞しています。

活動のお知らせ

どなたでも参加できます。名札を持っている人は忘れずにつけてきてください。

内容についての問い合わせは事務局 瀬田 (3969-7124) まで

● 定例会は毎月第1金曜日

日時：8月3日(金)18:30～20:30

9月7日(金)18:30～20:30

場所：エコポリスセンター

● 会報発送

日時：9月14日(金)17:30～19:00

場所：エコポリスセンター

お手伝いできる方は応援よろしく

● 赤塚自然池湿地づくり作業

日時：7月20日(祝)10:00～12:00

場所：美術館前

内容：広場側の一部を湿地帯にします。土
を入れ、水草を植えます。

持ち物：汚れてもよい服装、タオル、水筒、
軍手、長靴

連絡先：環境保全課 3579-2598

その他：雨天の場合は21日(土)

● 赤塚公園昆虫調査

環境保全課で実施する昆虫調査ですが、
水と緑の会は赤塚公園を受け持ち実施し
ます。

①打ち合わせとトラップの設置

日時：7月28日(土) 13:30～16:30

場所：エコポリスセンター2階和室

講師：釣巻岳人

内容：設置の仕方の説明を受け、練習後、
赤塚公園でトラップを設置します。

②トラップの回収とえさの交換

日時：8月1日(水)または2日(木)

場所：赤塚公園

③昆虫の回収、整理と種類調べ

日時：8月5日(日) 13:30～16:30

場所：エコポリスセンター2階環境学習室

講師：釣巻岳人

持ち物：あれば図鑑、ルーペ、ノート

内容：回収した昆虫を持ち寄り、分類して
種類を調べます。

● 城趾広場の植物調査と勉強会

日時：7月29日(日) 10:00～12:00

場所：赤塚城趾草原の前

講師：島井誠司(大東文化大学)

持ち物：植物図鑑、ルーペ、ノート

● 堆肥置き場の調査と清掃

日時：8月26日(日) 13:30～15:30

場所：竹林前

内容：堆肥置き場の生き物を調べ、傷ん
だところを直し、清掃します。

● 赤塚自然発見ウォーキング実行委員会

日時：8月26日(日)10:00～12:00

場所：赤塚5丁目集会所

内容：イベントや遊びのメニューを考え
ます。

● 白子川源流ウォッチングその2

午後はウォッチング結果をまとめます。

日時：8月25日(土)9:30～15:30

場所：大泉学園前駅南口集合

持ち物：帽子、筆記用具、弁当、水筒等

連絡先：須貝 048-464-5545